

新旧が融合するまち 上大岡

新旧が融合するまち 上大岡

町内会活動のきっかけ

加藤さん 最初は文化部長で、お祭りの担当をしていました。それから町内会長代行などを経て今に至ります。平成30年には、在職20年ということで、市長表彰をいただきました。

木島さん 平和台自治会は、平成4年に第一町内会から独立してできました。私は、仕事の都合で一時的自治会活動から離れていましたが、定年後に再び自治会活動に携わるようになりました。

福嶋さん 私は17年くらい前に、当時の連合町内会長がうちにやってきて、「自分はお宅のおじいさんから町内会長をやるように！と言われた。だから今度は私があなたにお願いする番です。」と言われまして、それ以来、第二町内会の副会長をさせていただいています。

上大岡の魅力、昔の思い出

加藤さん この地区の魅力は、やはり京浜急行と市営地下鉄が通り、交通の便が良いことですね。

福嶋さん 新しいと古さが融合してい



左から：上大岡平和台自治会会長 木島勝吉さん、上大岡連合町内会会長 加藤重雄さん、上大岡第二町内会副会長 福嶋浩之さん

ると思います。上大岡は、今でこそ新しいビルやマンションが目立ちますが、実は歴史があつて古い。駅周辺は都市開発が進み、大型百貨店ができて、町の風景はずいぶん変わりました。

加藤さん 昔、上大岡から区役所の方へ向かう鎌倉街道は砂利道でした。夜は真っ暗で、自転車に乗っていて、気づいたら田んぼに落ちてしまったこともありました。

福嶋さん 加藤会長、子どもの頃に海に泳ぎに行った話をしてくださいよ。

加藤さん 昔の屏風ヶ浦ではアサリがいっぱい獲れました。親から電車賃もらうけれど、山を越えて歩いて、その分をおこづかいにして何か買うわけです。

福嶋さん 泳ぎたくてしようがなくて、山を下りながら、みんな裸になって、走って海にドボンって飛び込んだらしいです。

加藤さん 屏風ヶ浦の先は海だったからね。八幡橋のあたりはシャコがいっぱい獲れました。

イベントを通じて子どもたちが上大岡を知る場をつくる

木島さん 子どもを介して親御さんも地域のイベントに来てくれる、というのが理想ですが、世代交代で戸建てがアパートに変わって独居が増え、子どもが少なくなっているなど感じます。

福嶋さん 少子化の流れはありますが、上大岡小学校とは代々連携させてもらっています。子ども会の力も大きいですね。上大岡は、盆踊りや大岡川のクリーンアップなど、子どもたちが参加できるイベントが多いのが特徴です。これからも子どもたちに「上大岡」のアイデンティティを持ってもらえるようにしていきたいですね。



▲上大岡連合盆踊り大会

防災への取り組みとこれからの自治会

福嶋さん 要援護者支援や安否確認について、各町会が本腰を入れて取り組んでいます。近年では、ワンルームマンションが増えて、近所付き合いが薄れてきています。阪神や東日本の震災では、近所の人に助けられたという事例が多いので、近所付き合いの重要性を周知していきたいと思っています。

木島さん 新しく町内に入ってくる方々も、ワンルームマンションの人や外国人だったりと多様化しています。いろいろな人たちが参加する地域社会のあり方を、しっかり考えていかなければなりません。

加藤会長コラム 地区への想い

地域活動の担い手確保は一つの課題ですね。特に私の町会では、民生委員さんが、軒並み定年を迎えています。民生委員さんは各家庭に寄り添って活動をしてくれる大事な存在です。役員の高齢化が進む中で、いかに地域活動に取り組んでいくのか、未来を担う子どもたちのためにも行政と一緒に考えていきたいと思います。

歴史を継承して、地区の魅力として
アピールしていきたい

大久保最戸連合町内会

大久保最戸地区の歴史と イベント

田代さん このは小規模開発を徐々に重ねて町が出来上がった地区です。開発された当初は水道が無く、古い地主さんが水道の権利を持っていました。だから、入居した人はみんな地主さんに挨拶しに行き、そこから「近所付き合いが始まっ

ていきました。また、最戸には昔、炭坑があつたそうです。
林さん この地区の魅力はやっぱり歴史ですね。しっかり継承してアピールしていきたいです。歴史を感じられるイベントとしては、3年に1度、昔から代々受け継がれている立派な山車が出るお祭りがあります。源義経の人形が乗っている山車で、神輿会が守っています。

田代さん 他にも、体操、夏祭りや盆踊りなど、いろいろなイベントを実施しています。

林さん さつき台自治会館では、毎月1回「おとまる会」という、みんなでレコー



左から:大久保最戸連合町内会会長 林金吾さん、
港南歴史協議会理事 田代哲さん

会」。ポップスからクラシックまで幅広くかけているのですが、好きな人が自然と集まってくる。特に人気があるのは昔の民謡で、みんなで口ずさんでいます。近隣にある高齢者のグループホームの皆さんともレコードを通して地域交流を深めていきたいと思っています。

町内を細分化して、 防災意識を高める

林さん 連合で実施している意見交換会では、単会ごとの防災訓練などの情報交換をして、お互いの良いところを取り入れています。ただ、もっと防災への意識を高めていきたいですね。一人一人が意識を持って臨めるように、町内を1ブロック20世帯ぐらいに細分化して、延焼を最小限に抑えるための訓練等を行っています。私のいるブロックでは、スタンドパイプのホース着脱訓練をしました。

田代さん この辺りには、防災用に井戸

を残しているところが何か所あります。
林さん 湧き水は町内のあちこちにあり、大久保池跡の湧き水は100年以上前から出ているそうです。飲料水としては使用できませんが、災害などの「もしも」の時には、うまく活用できればいいなと思っています。

先輩から代々受け継いだ、 行事マニュアル

林さん この地区では、年間行事の全てにマニュアルがあつて受け継がれています。集団では、行き当たりばったりじゃ行動できませんからね。ベースとなるマニュアルがあるので、後はその時の会長の考えで、今までのやり方を継続したり、少しずつ変えたりしています。ただ、「子どものためになることをしよう」という方針は昔から変わっていません。

子ども向けイベントの1つに、毎年8月に開催している「防災体験オーバーナイトキャンプ」があります。いざという時のために、地域のボランティアの皆さんと一緒に、小学校の校庭にテントを張って寝泊まりをするのですが、食事は、火おこし・火消しも行うことで、子どもたちに火の取扱いを体験してもらっています。昔、「家に帰りたい」って泣いていた子が、今はもう二十歳を過ぎてお手伝いに来てくれたりする。そういうことがあると嬉しいですね。



▲防災体験オーバーナイトキャンプ

林会長コラム

地区への想い

どんなことでも他人事ではなく自分事として、できることを全うしたいと考えています。他人の痛みが分かるということは大切です。大げさなことではなく、身近なところで世間話をしながら、何をすべきか決めていく。これが地域活動の秘訣だと思います。それこそ、「おとまる会」のようなリラックスできる場で行事の話をしていくと、いろいろな良いアイデアが出てきますよ。

子どもを中心に考える。 着実に地域の未来へつながる。 笹下連合町内会

地域に溶け込む横浜刑務所

荻原さん 私がここに来た昭和14年頃は、京浜急行の弘明寺のトンネルから上大岡までは、二面田んぼで、のどかな農村でした。横浜刑務所の存在は当時から大きかったです。官舎の人たちも連合町内会に入っていて、一緒に地域活動をしている。こんな風に地域に溶け込む刑務所は珍しいと思います。

荻久保さん 矯正展も定期的に開催され、地区の内外からたくさんの方が集まります。

地区の行事は子どもを中心に

荻久保さん この地区では、消防音楽隊や学校の吹奏楽部などの演奏やパレードで大いに盛り上がる「港南桜まつり」や、運動会とお祭りが一体となった「ささげ祭り」など、多くの行事が子どもを中心に考えられています。中でも「子ども防災体験イベント」は、小学生を対象に、学校の体育館で行う本格的な防災訓練です。消防署にも協力してもらって訓練を行い、子どもたちみんなで食事を作って、寝泊



左から：笹下連合町内会会長 荻久保頼則さん、
中の丸町内会元町内会長 荻原勝さん



▲港南桜まつり

りしています。

荻原さん 阪神大震災をきっかけに、子ども防災体験イベントを始め、20年近く続いています。子どもの頃から防災について知ってもらうことは良いですよ。

荻久保さん 中学生もボランティアで参

加してくれており、それを見た小学生は、自分たちも中学生になったらボランティアをやるよ、という意識が強くなります。ボランティアも含め、参加してくれる人たちが楽しくなければ、イベントは成功とは言えないと思います。参加者が自分たちで考え、行動してもらえよう、命令や強制はしません。反対意見についても一緒に考える、ということ徹底しています。

地域と子どもたちを 一つにつなげた桜の木

荻原さん 桜道は、もともとは日野公園墓地の参道としてつくられました。桜は4月にはきれいに咲いて、夏には木陰を作ってくれるのですが、11月になると葉が枯れ落ちて、道が汚くなってしまふ。南台小学校の子どもたちが落ち葉を踏みながら通学するのは気の毒だということで、地域の人たちが掃除を始めたんです。しばらくすると、生徒会の皆さんが「お手伝いをさせてください」と提案をしてくれました。そこから、朝礼が始まる前の10分間、地域の人たちと学校の生徒たちが、一緒に掃除をすることになりました。もう10年以上前になりますが、それが今でも続いています。桜の木が地域と子どもたちをつなげてくれた素敵なエピソードでしょう。「おはよう」「ご苦労様」という挨拶も、自然にできるようになりました。

人と人とのつながりを強くする 「敬老研修旅行」

荻久保さん 地域の行事は、工夫しているいろいろ開催しています。先日「敬老研修旅行」という日帰りバス旅行を企画し、総勢168名で和気あいあいと河口湖まで行ってきました。

荻原さん お楽しみだけではなく、バスの中では「振り込め詐欺」に関する注意喚起などもしているんですよ。

荻久保さん 落語家の桂歌助さんをお招きして、防災に関するお話をしていたこともあります。

荻原さん 年一回の研修旅行を、皆さん楽しみにしています。このような行事が人と人とのつながりを強くしていくんだと思います。

荻久保会長コラム 地区への想い

自分が生まれ育った場所なので、大事にしたいし、発展してもらいたい。高齢化に伴い課題も増えてきますが、着実に育ってきている次の世代と共に、みんなで支え合って、和気あいあいと活動していけるといいなと思います。自然体で、言いたいことを言い合える関係性を大切にしていきます。

意見交換会から生まれる日下の魅力 日下連合町内会

地区の歴史がつまった 郷土資料館

市村さん この地区ではもともと農業が盛んでした。

北見さん お米や麦、花を作っていました。野菜はリヤカーに乗せて一軒一軒の家を訪ねて売ったり、ということもありましたね。平成14年に日下小学校の創立100周年を記念して作られた郷土資料館に、足踏み脱穀機や手回し扇風機など昔の農機具を展示しています。どうやって使っていたのかは実際に使ってみないとわからないかもしれませんね。

市村さん 私は経験したことがあるので分かりますが、次の世代では使い方を説明するのは難しいかもしれませんね。

北見さん 生徒たちに昔の話をしながら原理を教えるので、参考になるかなと、これらの機具は集めて保管していました。この地区で出土された縄文時代、弥生時代の焼き物などもあります。私の実家の畑からも出ました。わずか70センチから1メートルくらいの深さから出てきたものです。



左から：日下小学校郷土資料館館長 北見繁男さん、日下連合町内会会長 市村喜正さん

市村さん 昔は船を新造すると、安全祈願をしてから屏風ヶ浦の海に出たんです。うちの祖先は船霊さんの神主だったので、私の家からは神主が使う「笏」が2本出てきましたよ。

アイデアが生まれる場所 「ひした未来カフェ」

市村さん 日下地域ケアプラザで「ひした未来カフェ」という意見交換会を年2回開催しています。子どもから大人まで50人くらい集まって話し合い、「子どもたちのために凧揚げができればいいね」とか、「お神輿を復活させよう」といった声が出て、それらを実現させています。凧揚げの時は一緒に焼き芋もやりました。

北見さん 食べ物があると子どもたちは喜びますね。その場で火を起こして、本格的な焼き芋です。

市村さん この地区で行っている「あいさつ運動」も「ひした未来カフェ」から始

まりました。「地区のみんなが、たくさん挨拶できるといいよね」という思いで、目印となるバッジを作りました。キャラクターはこの地区のお子さんがデザインしてくれたものです。これを付けている子どもたちが真っ先に挨拶してくれる。「このバッジをつけてる人は安全な大人だよ」と、学校でも言ってくれています。今では、学校の先生も、町内会の役員もみんな付けています。

笹下川クリーンアップ

北見さん 数年前までの笹下川は、自転車などが平気で投げ込まれていて、見ら



▲ 笹下川クリーンアップ

れたものではなかったです。昔は擦染工場が川で布を洗っていましたしね。

市村さん 川でのりを剥がしていました。

北見さん 布からバーツと色が出てね。

市村さん 区制40周年のときに笹下川の清掃の話が出て、平成22年から隅田さんが中心になり清掃をはじめました。

北見さん 区役所の応援もあり、学校も参加してみんなで一生懸命取り組むようになったのです。

市村さん 少年野球や地域の皆さんに参加していただいて140名くらいで清掃をやっています。今では水がきれいになって、魚が泳ぐようになるまで川がよみがえり、平成30年には、横浜市から環境活動賞をいただきました。

市村会長コラム 地区への想い

この地区が恵まれているのは、日下地域ケアプラザを中心として、学区と連合町内会の区域が一致しているところです。新旧の住民が、地区のさまざまなイベントを通じて、お互いに仲良くつながっていきたいと考えています。日々の顔の見える関係が被災に役立つと思いますので、「地震発生時、火災ゼロ」を目指して、住んでよかったなというまちにしたいですね。

日野連合町内会

各世代の力を合わせて魅力ある地区へ

世代を超えたつながりを大切に

田代さん 私は結婚を機に港南区に移り住み、地元の方から勧めもあって50代で地域活動に携わるようになりました。日野第三及び日野町内会の会長を経て、現在、日野連合町内会の会長を務めています。

荒井(正)さん 私は定年の後、地域の民生委員を務め、現在は学校の体育館などを借りて合気道教室を開いています。こうした機会を活かして交流を深めながら若い世代の人がもっと町内会に参加してくれるようにお手伝いしていきたいです。

荒井(義)さん 私もリタイア後、町内会のゲートボール大会に参加したことがきっかけで町内会の役員を務めてきました。今は町内会の役を退きましたが、超高齢時代ですので、元気なお年寄りに声をかけをして、地域の中で活躍できる場があると良いな、と思っています。

行事への取組

田代さん 連合町内会主催の「ふれあい子ども祭り」は、町内会と子ども会が店



左から：荒井正雄さん、日野連合町内会会長 田代孝之さん、荒井義男さん



▲日野ふれあい子どもまつり

を出して大盛況です。また、子どもの見守りとして、83運動と合わせて横断歩道での旗振りを登校日には毎日実施しています。

荒井(正)さん 毎月第2土曜日は、会館開放日としてお年寄りの居場所づくりに取り組んでいます。お喋り会や、地域

ケアプラザの相談、女性部の皆さんがボランティアでつくる軽食を食べてもらったりして賑わっています。お気持ちとして100円頂いて、そのお金は年末に赤字に寄付をしています。

若い人とベテラン世代の力で地域活性化

田代さん 将来的なことを考えると、いかに若い人たちに参加してもらえるかが重要だと思っています。皆さんが参加しやすいような工夫の一つとして、夏祭りのお手伝いはローテーション制としています。最初から時間を区切っておくと、「仕事終わりのこの時間なら」といった感じで皆さん協力してくれるんですよ。一度参加すると、顔なじみもできて次の機会にも声をかけやすくなりますし、皆さんから参加してもらえることも多いです。

荒井(正)さん 若い人はもちろん、年配の人でもまだまだ家の中にいる人が多いと思います。

荒井(義)さん 私が住む日野町内会には現在老人会が無いのですが、老人会と町内会の活動は車の両輪のようなもの。やはり元気な高齢者も地域活動の重要な担い手だと思うので、皆さんを呼び込めるような工夫をしていきたいですね。

町内会館をみんなが集える魅力的な場に

田代さん 連合内の各自治会町内会館

の開放日には、どの会館に行っても良いことになっているので、趣味の講座とかイベントへの参加など、横の交流も行われています。

荒井(義)さん 一方で、会館に入りづらいと感じてしまう方も多いと思うんです。自治会町内会館は地域活動の拠点ですから、その拠点に人が集まるのは地区の活動が盛んだということにもつながります。様々なサークルを作ってみんなが集まれるようにする、というのも一つのアイデアですよ。

田代さん うちの町内会館では、昨年から作品展を始めました。絵画、写真、書、工芸品等、何でもOKとしたところ、多くの作品を持ち寄っていただきました。子どもたちに毎年描いてもらっている夏祭りポスターのコピーも展示したところ、親御さんも含め多くの方で賑わいました。

田代会長コラム 地区への想い

地域活動は、決して大きなことをするのではなく、一つひとつの小さな取組の積み重ねだと思っています。今後は、子どもから高齢者までみんなの絆を結びつける接点となるような取組・イベントを考えていきたいですね。

先人たちの想いを継承し、
みんながいっきき活動できるまちへ

日野第一連合町内会

地区の一大イベント 「ふれあいフェスタ」

小後摩さん 日野第一連合は、先人たちが苦勞を重ねて築かれた、誇りを持てる地区です。特色ある大きなイベントとしては、「ふれあいフェスタ」を毎年開催しています。

高森さん 農産物がたくさん収穫される11月～12月頃に、吉原小学校の校庭でチャリティーバザーを行っていたのが始まりです。時代の流れとともに形を変え、各団体や地元企業の協力を得て、今の「ふれあいフェスタ」になりました。地域住民や次世代を担う子どもたちのための大切なイベントです。

小後摩さん 小学校に模擬店がずらっと並び、毎年3,000人くらい集まり賑わっています。入場るときに抽選券を渡し、最後に抽選を行うことで、皆さんに最初から最後まで楽しんでもらえる工夫をしています。

自分たちのまちは 自分たちできれいに

高森さん この地区は、区内で最初に「マ



左から：区連合顧問 日野第一連合名誉会長 高森政雄さん、日野第一連合町内会会長 小後摩和雄さん

マロード・サポーター(※)に参加して、今も活動を続けています。昔の鎌倉街道には、たばこの吸い殻や空き缶などのごみが多く、これを自分たちでなんとかしようというのがきっかけでした。最初はなかなか人が集まらず大変でしたが、今では道路沿いの企業さんなど、参加してくださる方が増え、まちが本場にきれいになりました。

※地域のボランティア団体と行政が協働して、身近な道路の美化や清掃等を行う制度。

防災活動をきっかけに 人と人がつながるまち

高森さん この地区一番の特色は防災に力を入れているところですね。安全・安心なまちをつくろうという考えが一番の基本です。

小後摩さん この地区の地域防災拠点には吉原小学校の1か所だけなので、まとまりやすいんです。平成30年の拠点訓練

は、小学校の授業参観と合わせて行いました。

高森さん 防災訓練は町内会ごとにも実施していて、餅つき大会と一緒にやる町内会もあります。

小後摩さん 薪を燃やすところから始め、子どもにも火の大切さ・怖さを教えたります。防災をきっかけに、子どもから高齢者、障害者など、いろいろな方となることが出来ます。防災訓練の冒頭では、いつも、「この坂を上って地域防災拠点に来られるのは元気な人。だからこそ、皆さんには、避難者じゃなくて援助者になつてもらいたい」とお話しています。

日野川にこいのぼりを 泳がせよう

小後摩さん 平成30年には、日野川にこいのぼりを泳がせるイベントを初めて行いました。当日は、この地区に転入されてきた方々にも多数来ていただいたので、このようなイベントがきっかけで、地域の活動にも参加してもらえると嬉しいのです。

また、その昔この地域は伊勢湾台風により水没したことがあります。水害からまちを守るため、高森名誉会長が本場に力を入れて、大岡川分水路ができました。今は当たり前に使っている分水路や連合会館は、先人たちの努力の賜物なんです。

高森さん 若い頃、父から「この世に生を受けた以上は、自分の知性を磨き、人のため社会のために貢献しなさい」とよ

く言われたものです。その時はピンと来なかったのですが、だんだん父の言葉の意味が分かるようになりましたね。



▲日野川鯉のぼりまつり

小後摩会長コラム 地区への想い

「みんながいっきき活動できるまち」「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」「人と環境にやさしいまち」、この三本柱が地区の目標です。古き良きものを引き継ぎ、新しい風を取り込んでいきながら、少しでもこの地区を良くしていきたいというのが我々の願いです。

みんながみんなのために、
ちよつとずつ力を貸す

港南台連合自治会

港南台のはじまり

齊藤さん 私が引越してきた頃は、山の谷間に水田が少しあるような場所でした。そこから港南台という町が発足した直後も、まだまだいぶ空き地がありましたね。

松井さん 私たちはまだ何も無かった頃に引越してきたから、だんだんと新しい施設や住宅街ができて、賑わってきて嬉しいなって思いましたね。

ある時、雑巾を縫いますから集まってくださいっていうチラシを配ったら、50人以上集まって、家庭科室が満杯。このチラシ一枚でこれだけの人が集まってくれるんだから、何でもできるなって思いました。

港南台をみんなの故郷にしたい！

松井さん 港南台に引越してきた当初は、地域のイベントは何もありませんでした。だからこそ逆に何でもできるんだなと思いました。私たちはここで子育てをしていくのだから、「子どもたちに故郷を作ろう」という思いで、お祭りや活動



左から：港南台連合自治会会長 齊藤晴通さん、
区女性団体連絡協議会会長 松井佑子さん



▲ 港南台夏祭り

をしてきました。

齊藤さん イベントをやると人が集まっています。そこで何らかの結びつきができるんですよ。その効果は大きいと思う。港南台では連合自治会で夏祭りをやっています。

松井さん この夏祭りは、地域と商店会が一体となって実施しており、大勢の人が

集まる自慢のイベントですね。

齊藤さん 港南区のお祭りの中でも最大規模のイベントだと思います。商店会との共催だから集客力がある。お店にポスターを貼ってもらおうと広報にもなりませんか。

松井さん みんなこの町を自分たちの故郷と感じてくれるからこそ、多くの人が来るのかなと思っています。

みんなが地域を守る

齊藤さん 私の自治会では、毎週防犯パトロールを実施しています。毎回だいたい12〜13人集まりますかね。私自身は現役の頃にはほぼ地域活動に参加していません。だったので、仕事をリタイアしたことを機に参加したのが始まりです。朝は交通安全と防犯を兼ねて通学路の見守りをしています。

松井さん うちの防犯パトロールは17〜18時頃から始め、パトロールの後は打ち上げ会です。みんなそれが楽しくて参加してくれるのかもしれないね。

防災に関するもすこく熱心で、地震や風水害などいろいろあるからみんなが地域を守ろうと災害対策委員会を作りました。

齊藤さん この辺は非常に地盤が良いところですから、おそらく壊れて住めなくなるような家はあまり無いのでは、と思えます。だからこそ、水と電気が大事。特に水ですね。あとせめて1週間か10日分くらいは食品の備蓄は各自で取り

組む必要があると、自治会ではPRしています。

住みやすく整備された町

齊藤さん 何度か引越しをしているけれど、港南台が一番住みやすい。もともと計画的に作った町ですから、道路、公園などが広くてきちんと整備されていますし、蓬莱荘(※)も含めて地区センターやコミュニティハウスなどの公共施設も揃っている。それから鎌倉に続くハイキングコースは本当に素晴らしいです。この良好な環境を維持していくために、みんなが努力していく必要があるんじゃないかな。
※港南台にある横浜市老人福祉センター

齊藤会長コラム 地区への想い

みんなが「港南台にずっと住み続けたい」と思ってくれる、そういう町を維持していきたい。地域活動には、みんなのためにちよつとだけ時間や労力を割こうという気持ちが大変です。これからは高齢化問題にどう対処していくかが課題。みんながちよつとずつ力を貸して、負い目を感じることもなく誰かに助けを求めることができる。そんな仕組みができたらいいなと思います。

自助・公助・共助の前に「近助」が大事

永野連合町内会

人口3万人、

世帯数13,600の大きな地域

三橋さん 永野地区は、人口3万人、世帯数が13,600ぐらいあり、エリアがとても広いことが特徴です。白居さんのお宅に行くのに、他の町内会を通じていくような感じですからね。

白居さん うちのあたりは田んぼで米を作っています。

三橋さん おいしい梨がとれる畑もありますね。

山口さん 昔は道路が狭くて、砂利道でした。

白居さん だから牛車の牛に草鞋を履かせました。道が悪くて切れちゃうものだから、往復で2足ね。

山口さん 私も昔はあの草鞋を作ったものです。

白居さん 当時は、道路を直す、周りに茂った草を刈る、といった「道普請」を町内会でやっていましたね。

時代とともに変化する地区の行事

三橋さん 連合で主催している行事



左から:上野庭町内会会長 白居一郎さん、永野連合町内会会長 三橋茂樹さん、元南高台町内会会長 山口龍雄さん

は、体育祭と盆踊りです。体育祭には約1,500人くらいが参加しますので、安全性を考慮することが大切です。今後は競争ではなく、ゲーム的に楽しくできるようなものが良いのでは、と話し合っているところですよ。

山口さん 以前は町内会ごとに運動会をやっていましたが、だんだん変わってきましたよ。

白居さん 青年団が係担ぎをやったりもしていましたね。割と大変なんですよ、係を担ぐの。



▲永野連合体育祭

地域の居場所世代間交流

三橋さん 「くじらの館」という永野地区地域福祉活動拠点があるのですが、そこでお汁粉の炊き出しを行い、子どもから高齢者まで自由に集まってもらったところ、お汁粉を食べていた子どもを見て、近くにいたおじいちゃんが「箸はこうやって持つんだよ」と教えてあげていました。イベントを通じた世代間交流ですよ。

永谷天満宮の例大祭

山口さん 学問の神様、菅原道真公をお祀りしている永谷天満宮の例大祭は、子ども神輿やお囃子などで毎年大いに賑わっています。

白居さん 上永谷から各地域を回るんです。

山口さん お囃子は子どもたちに代々受け継がれています。

後世に残していきたい風景

三橋さん 鎌倉時代に北条政子が馬を洗ったと言われる馬洗川の湧水でしょうか。天谷大橋の先、馬洗川せせらぎ緑道を歩いて行くと、砂地からホロホロと水が湧いています。この風景はいつまでも残していきたいですね。

山口さん 昔この辺りには、テンが出たそうです。それで「天谷」という名前がついたという話を聞いたことがあります。

隣の人に「助けて」と言える関係作り

三橋さん 最近では、自助、公助、共助も必要だけど、まずはこの「近助」が大事だと思えましたね。

山口さん 遠くの親戚よりも近所の人。

三橋さん この地区の中で、ある人が助けを求めたところ、実際に助けに行ったのは離れたところに住む人だったということがありました。この話を聞いた時、隣近所の人に「助けて」と言える関係を作っていかなければ、と思えましたね。そのため、夏祭りや餅つきなどのイベントに力を入れています。イベントで人が集まり、顔見知りになれば、挨拶を言い合えるようになる。そうすると、「あれ、あの人が最近会ってないな、どうしたのかな?」って、思えるようになりますよ。

白居さん 声かけは必要。簡単な言葉でいいんです。

三橋会長コラム 地区への想い

最近では、子どもの声が「うるさい」と言われてしまうようなニュースが流れる。時世ですが、この地区ではお住まいの皆さんのご理解をいただきながら、いつまでも子ども達の元気な声が響く町にしたいと思います。それには、安全・安心な町であるということが大事ですね。

野庭団地連合自治会

世代間の交流を広げて、つながりを強く

団地とともに大きくなって いった連合自治会

向後さん 野庭団地は、昭和49年に最初の区画が完成しました。あたりはまだ整備されておらず、赤土だらけで砂漠のようでした。交通も不便でバスの本数も非常に少なかった。その後十数年かけて棟が増え、現在では約2,200世帯あります。自治会も徐々に増えて、昭和55年3月に連合自治会ができました。

加藤さん 私が住み始めたのは昭和58年でしたが、その頃には緑道も整備されていました。これは住み始める前の話ですが、夜になると野庭団地がまるで模型のように光っているのを車で天谷大橋を通る時にいつも見ていました。すごい建物ができきたな、きれいだなあってね。

向後さん 昭和50年代には商店街もでき、買い物ができるくらいに混んでいたものです。高度経済成長期で、30〜40代の入居者が多く、幼稚園に入るにも抽選で、小学校に仮設校舎が建つほど子どもたちも多く賑やかでした。

加藤さん 子育て世代が多かったから、



左から：野庭団地連合自治会前会長 向後善さん、野庭団地連合自治会副会長 加藤壽夫さん

そのお付き合いを通してコミュニケーションも盛んでした。

地域支えあいネットワーク会議

向後さん 野庭団地では「地域支えあいネットワーク会議」として、年に3回意見交換会を行っています。自治会長、各種委員・各種団体など50人ぐらいが集まり、それぞれどのような活動をしているかを発表し、課題などを話し合っています。

加藤さん 防災についてもここで自治会ごとに活動報告をしています。それぞれ取組内容に差はありますが、良い部分を吸収し合い、なるべく近いレベルに底上げしよう。

向後さん 東日本大震災以降は、地震対策について積極的に意見交換をしています。

加藤さん これは団地ならではの課題ですが、何かあった際に、エレベーターが止まってしまったらどうしようかと。住民

が高齢化していますから、10階から1階までどのように移動をするのかという心配があります。自治会ごとに具体策を決めていくべきだと考えています。

住民同士の大切な交流の場

向後さん 高齢化が進む中で、これからは今まで以上に隣近所のつながりやコミュニケーションが大事になります。交流の場づくりとしては、地域ケアプラザにもご協力いただき、連合では年に2回「健康づくり歩こう会」を開催しています。子どもから高齢者まで100人ぐらい集まって、地域の歴史や自然を楽しみながらウォーキングをします。自然豊かな緑道があるので、ウォーキングが楽しい習慣として身につきます。また、毎年秋には「ふるさとのおば 福祉の集い」で舞台発表や作品展示、各種団体の活動発表を行っています。参加者は600人以上にのぼる大切な交流の場です。

加藤さん 昔に比べると子どもはだいぶ少なくになりましたが、それでもここ最近若いご夫婦が少しずつ増えてきた実感があります。私の自治会では、3〜4年前まで小学生が6人ぐらいしかいなかったのですが、今では倍近くに増えました。

向後さん 新しく入ってきた人とも交流ができるように、自治会ごとでもいろいろな行事を実施しています。連合でも毎年研修バス旅行を企画し、普段あまり

交流がない人同士の座席が近くなるようにするなど、つながりが広がるよう工夫をしています。



▲健康づくり歩こう会

向後会長コラム 地区への想い

これから一番重要なテーマは「見守り・助けあい」です。そのためには、野庭団地の住民が気軽に交流できる環境づくりが何よりも大切です。子どもから高齢者まで、みんながつながりを持てる機会を積極的につくっていきたいと思っています。

恵まれた環境と あたたかいつながりのあるまち 野庭住宅連合自治会

長屋のような交流が残る地域

木村さん 野庭は緑が多く、夏は涼しくて住みやすいですね。それに、ここに住む人は、隣近所の長屋のような温かい人が多いですね。

播磨さん 昔は小さいお子さんも多くて、棟の階段ごとにバーベキューをやったりしました。今では小さい子を探すのが大変です。

前田さん 当時はみんな20代。お友達がいっぱいいて、ドアの鍵も開けっ放しで、子どもたちが出入り入ったり。近所同士で子どもの面倒をお互いに見合っ、とても賑やかでした。

木村さん 子どもの洋服を作るときは3人分ぐらいまとめて作りました。作った洋服はうちの子からお友達へ、さらにまた別のお友達のとこに、といった感じで。子どもたちも「大事に着ないと、次は○○ちゃんのとこにいくんだよね」とか言っていました。

升水さん うちの近所は人がほとんど入れ替わってしまった、当初から残っているのは1/3程度。

木村さん でもグラウンドゴルフをした



左から:野庭住宅第一自治会会長 升水弘一郎さん、野庭住宅連合自治会会長 木村妙子さん、野庭住宅第二自治会民生委員副会長 前田恵美子さん、野庭住宅第四自治会民生委員 播磨清二さん

り、交流はよくしていますよね。

播磨さん うちの自治会では、交流カラオケという、一人でも自由参加できる会があつて、結構楽しんでます。そういった集まりでも、近所同士の交流ができています。

木村さん 年中何かやっているような感じですよ。さっきの長屋じゃないけど、お隣に何か配つたり、田舎からこんなもの送ってきたとか、そういうつながりは今でもありますね。

野庭を巣立った人たちも 集まる夏祭り

升水さん 野庭で力を入れているイベントは敬老会や夏祭り、暮れには餅つき。子ども会と自治会の共催でやっています。

木村さん 夏祭りの時にはここを巣立った昔の子どもたちが自分の子どもを連れて帰ってきたり、近所からも多くの人が集まってくるので、とても賑やかです。

播磨さん 秋には、公園で焼き芋もやります。

木村さん 春にはお花見やバーベキューも。年末には、子ども会はクリスマス会、大人は忘年会という形で、各種団体や老人会が集まって、みんなで料理をたくさん作ってバイキング形式で楽しんでいます。



▲ 連合夏祭り

みんなで取り組む 「家具転倒防止活動」

木村さん この地区では防犯・防災にも積極的に取り組んでいます。毎月防犯パトロールをしているほか、主に家庭防災員を集めて防災を考える会を毎月開いています。消防署とも連携して、衣類はどういうものが燃えやすいとか、身の守り方とか、様々な勉強をしています。

播磨さん うちも第1土曜日の夜、2グループ程度に分かれて見回りをしています。

前田さん 第2自治会でもパトロールや防災教室を自治会でやっています。

木村さん 防災を考える会を始めてもう5年ぐらいいなりますかね。当初は、お年寄りが避難した際、避難所の床では寝られない、では住み慣れた自宅避難できるようにするにはどうしたらいいかということから始まりました。そこから家具転倒防止の取組を始めようということになり、みんなで突っ張り棒の取付け方を勉強しました。区役所にも協力してもらい、最初は75歳以上の方と障害者のお宅を中心に取付けに行きました。今でも家具転倒防止には力を入れています。

木村会長コラム 地区への想い

「野庭にじいろさん」(※)「プラン」を作ったときのアンケートを見ると、緑が多く、交通の便・治安も良い。水害などの災害にも縁遠く、住むにはとても良いところですよ。この恵まれた環境や、今の人間関係などの良いところを維持しながら、今後に向けても活性化を図っていきたくですね。

※「にじいろさん」とは、1から6まである野庭住宅連合自治会と近隣の自治会との語呂合わせ(2・4・1・6・3・5)で、未来への架け橋である虹のように光り輝いてほしいという願いが込められています。

新旧が融合した地元愛あふれる町

下永谷連合町内会

町に伝わる1,000年以上の歴史

古屋さん この地区には由緒ある場所がたくさんあります。今日お越しただいている皆さんに聞けばこの辺りのことは全て分かる、本当にありがたい仲間たちです。

森さん 私ぐらゐの世代までは、「キツネに化かされた」ような、この辺の民話も代々受け継いできました。昔は、いろりを囲んでお年寄りの話をよく聞いたものです。

土屋さん この町には1,000年以上の歴史があつて、**殿屋敷遺跡**や**縄文時代**



▲下永谷の昔を歩く会



左から:中永谷町内会会長 飯島武治さん、
下永谷連合町内会会長 古屋文雄さん、
下永谷町内会会長 森喜八さん、
下永谷町内会副会長 土屋清敬さん

の記録があちこちに残っています。自分の町をもっと知り、愛着を持ってもらいたいということで、毎年「下永谷の昔を歩く会」を開催しています。下永谷の有名な場所、史跡や寺院を回りますが、普段は気が付かない地域を知ることができて楽しいと好評です。

古屋さん 当日は子どもを含めて全体では300人程が集まり、途中でゲームをしたり、最後は炊き出しの豚汁やおむすびを食べて解散します。青少年指導員、スポーツ推進委員、女性部の皆さんがうまく連携できているからこそ毎年開催できているんだと思います。

飯島さん 地区社協と連合町内会が一体になって活動しているのも盛り上がるの秘訣でしょうか。

地区の強い結束力でつかんだ特別賞

古屋さん 最近嬉しかったのは、区制50

周年記念の交流駅伝でチーム編成をする時に、いち早くメンバーが集まってくれたことです。新しく越してきた若い人も入り、小学生から大人まで、一気にまとまりました。おそろいのユニフォームも作り、チームの結束力に対して特別賞をいただきました。

みんなで連携して地域を守る

古屋さん 地域防災拠点訓練の日には、大規模災害が起きた際の安否確認訓練として、住民がバンダナを玄関に出して、それを民生委員が全て確認しています。**土屋さん** 病院や地区センター、地域ケアプラザも一緒に参加してくれるので助かっています。

古屋さん 行政にも我々に足りないところは助けてもらって、自分たちの地域は自分たちで守るということを大前提に、各々が積極的に動いてくれる。本当にこの地区はすごいなと誇りに思います。

森さん 各町内会の防災に対する意識も非常に高まっていると思います。「わが町から1人も犠牲者を出さない運動」をしていた時期もありました。そのぐらい組織的に動いていますよね。

毎年大賑わいの「チャリティー芸能大会」

古屋さん 地区社協と合同で「チャリティー芸能大会」という演芸大会を毎年開催し、大いに賑わっています。

飯島さん 平成元年からやっているのもう30年になりますね。

古屋さん 出演者は子どもから大人まで30組以上。歌と踊りと鳴り物、大正琴、それから手品はプロ級です。学生のバンドもボランティアで参加してくれています。

平戸永谷川クリーンアップ

土屋さん 平戸永谷川のクリーンアップは年2回、もう15年続いています。

古屋さん クリーンアップというのはその日だけじゃなくて、土屋会長をはじめ、公園愛護会の人たちが事前の準備を何日もかけて行った集大成なんですよ。**飯島さん** 川は年々きれいになっています。**土屋さん** アユやカモ、カワセミもいます。

古屋会長コラム 地区への想い

地域活動はボランティアですが、気持ち良くやれたらみんな嬉しいですよ。「自分たちで町を良くするんだ」という気概を持って、お互いに言いたいことを言い合える仲間でありたいです。子どもたちにも「下永谷は自分の町なんだ！」という意識を持ってもらえると嬉しいですね。

「自分の周りを少しずつ良くするため」の
集積でより良い地区へ

永谷連合町内会

永谷の発展の歴史と 連合の成り立ち

若林さん 私はここで生まれ育ちました。が、街並みはずいぶん変わりましたね。元々は田んぼばかりでしたが、バスターミナルや別所インターチェンジができ、昭和62年頃からどんどん拓けて住宅が増えました。

もともとは、永野村と野庭村が一緒になって永野連合ができました。所帯が増えて、そこから下永谷連合ができて…というふうになっているので、現在の連合町内会になったんです。

井出さん 以前は、地図で見ると永谷連合の区域は横に細長い感じでしたね。

行事は町内会ごと

若林さん 永谷では、地区全体で大きなイベントをやるのではなく、町内会ごとに盆踊りやお祭りをやっています。

井出さん お互いに行ったり来たりしていますね。みんなで汗をかいて準備して

若林さん 200人くらい集まる会はしょっちゅうで、芹が谷中学校の自然園で焼き芋・豚汁会をやったり、小学校の



左から：永谷連合町内会会長 井出恵章さん、
芹が谷町内会会長 若林諭さん



▲ 焼きも&豚汁大会

校庭でミニS.Lを走らせたり。ミニS.Lは地域の人が何年もかけて作ってくれた力作です。

井出さん あとはシャフルボード大会も10回以上やっていますね。

若林さん 現在は町内会対抗で実施していますが、男女関係なく誰でもできるので、みんなで楽しめますよ。

自分の周りを少しずつ 良くするために

若林さん 以前、永谷地区で「町内会ってなあに」という冊子を作りました。その中に「町内会は、自分の周りを少しずつ良くするために存在しています。自治会町内会は会社ではありません。だから上司も部下もありません。でも自分の役割はあります。」という記述があるのですが、面白いですよ。

井出さん お互い楽しく、ちょっとずつでいいから力を貸してもらえませんか、という感じで、こまめに呼びかけています。

若林さん 港南区って、地域を良くしようという意気込みが強い、とても熱い区なんです。学び舎ひまわり(※)へ行くと「港南区っていいな」って思えるような人たちにたくさん会えます。自分たちのまちは自分たちで良くしようって、すぐ前向きですよ。

※地域で活動している人や地域支援にかかわる職員が「協働による地域づくり」をさらに進めていけるよう、地域づくりについて考えていく場。

井出さん 皆さん人情味が厚いというか、飲みながらでも、実はこうしたいんだよねって話し出すと、話に乗ってくれる人が多くて、盛り上がりがあります。

「6拠点防災連絡会」で 情報共有

若林さん 永谷地区には地域防災拠点

が6つあります。拠点ごとに取組内容が違っているので、みんなで情報交換してレベルアップしていこう、ということ。6拠点の防災連絡会ができました。他の拠点の良い取組は、お互いに学んでどんどん取り入れていきます。

井出さん 最初の頃は、拠点によって取組内容にも差がありましたよね。

若林さん 防災グッズもかなり早い段階から配布していました。一人暮らしや要援護者の人たちに防災グッズを配って、その中に入っている電池や飲食物を定期的に交換することで見守りにつながる。このようなシステムを各町内会で作って、永谷地区全体で一斉に、10年以上前から始めました。

井出会長コラム 地区への想い

永谷連合は、会議1時間、懇親会1時間半ぐらいで和気あいあいと話し合いをして、何かやろうって時には結束します。そういった人間関係が一番大事です。今後も「近所のつながりを大切に、共助の意識を持って「ながやく住みたいながやくみんなで作ろう」地域の和」を目指していきたいと思っています。

芹が谷連合自治会

人に優しく、みんなが住みたい町を目指して

芹が谷地区発展の歴史

藤田さん 私がここに来た昭和50年頃は、一丁目公園は牛がいる牧場だったんです。その下には子ども農園があつて、子どもたちがシルバークラブの指導で野菜を作っていました。

大平さん 昭和20年頃は、砂地でサツマイモを栽培していました。昭和38年頃から水道が敷かれ、住宅地として急速に発展していきました。山の上で交通は不便でしたが、風が爽やかで汽笛なんかも聞こえたものです。

池上さん 昭和40年代には団地や住宅がどんどん建ち、若い人がたくさん転入して子どももたくさん。芹が谷銀座は買物客で大賑わいでした。

大平さん 芹が谷には、山を開いて昭和4年から診療を開始した「芹香院」がありました。現在の「県立精神医療センター」です。

池上さん ひばりが丘学園(県立の知的障害児施設)もありましたね。

藤田さん 今は「やまゆり園」になっています。私は地域の皆さんにもっと色々な



左から:黄金苑自治会副会長 池上芳子さん、芹が谷連合自治会会長 藤田誠治さん、芹が谷台自治会会長 大木榮さん、芹が谷連合自治会元防災部長 大平力蔵さん

障害者施設に行ってみてくださいというお話をしています。お互いを知ることが大事ですからね。地域イベントも、施設の皆さんにも一緒に楽しんでもらえるようにしていきたいと考えています。

楽しみながら町をきれいに

池上さん 「クリーンスポーツ大会」は、年に一度の地区の大きなイベントです。最初は各町内から何人か集まって行っていました。今では小・中学生も、やまゆり園の皆さんや連合に入っていない人も、たくさん参加してくれています。

藤田さん 町がきれいになって、そのうえ運動にもなる。誰もが参加できて、交流にもつながりますから、ぜひ連合でやろうじゃないかっていうことで始まりました。子どもから大人まで楽しめるように点数の付け方にも工夫しています。「ゴミを拾うと町がきれいになります。町がきれいになると、心がきれいになります。」

心がきれいになると、人に優しくなります。人に優しくなれば、みんなが住みたい町になりますよね。」と、私はいつも皆さんに伝えているんです。



▲クリーンスポーツ大会

地区全体で取り組む、廃食油の回収

藤田さん この地区では、地球温暖化対策として使用済み天ぷら油の回収に取り組んでいます。奇形の魚が多くなっているのは、天ぷら油などで川や海が汚染されているのが原因じゃないかという、講演を聞いたのがきっかけです。

大木さん 自治会館など、色々な場所に回収ボックスを設置しています。

池上さん 少しずつ認知されて、今ではだいぶ集まるようになりましたね。

藤田さん 自分たちが使ったものをリサイクルしてエネルギーに変えられるのだから、身近な地球温暖化対策として、こんなに良い活動はないと思います。

町内会館はみんなの情報共有の場

池上さん 講演会などで自分が良いと思うことを聞いたら、みんなで共有することが大切だと思います。例えば、オレオレ詐欺には気をつけましょうねっていう話を、みんなが集まる場ですれば、「うちにこんな手紙が来たんだけど」「うちにも」って声が出てきて、みんな対策を考えることができますからね。

藤田会長コラム 地区への想い

これからは災害に強い地域づくりを目指していきたいですね。そのためには組織化と情報の共有化が大事だと思います。一人ひとりが災害対策を自分事として行動するための具体的な対策と活動を、50周年を契機に進めていきたいです。もう一つは、この地区の課題というか、再開発で緑が減ってしまうのが心配です。子どもたちのためにも緑を残していきたいと思っています。

住んでよかった日限山！ これまでも、これからも、いつまでも ひざり連合自治会

ひざり地区開発50周年

齋藤さん 港南区と同じく、令和元年はひざり地区の開発が始まって50周年なので、記念冊子の発行やポッチャなどのスポーツイベント、6月には記念式典を開催しました。

米村さん 50周年を機に今一度ふるさとを思い出してもらおう、という企画を計画中です。例えば「ひざり地区開発50周年記念ラジオ体操」のように冠をつけて、



▲ 50周年式典



左から：ひざり地区社協会長 利根川和代さん、ひざり地区社協顧問 姫野成示さん、ひざり連合自治会会長 齋藤史明さん、港南ブラザ自治会会長 米村純正さん

みんなで50周年を盛り上げていきたいと考えています。

ボランティア活動が盛んな町

姫野さん この地区では、ボランティア活動が非常に盛んです。それには特別養護老人ホーム芙蓉苑の存在が大きいと思います。昔からおむつをたたみに行ったりしていたので、ボランティアに参加することは、ごく自然なことでした。

利根川さん 私の最初のボランティア経験も、芙蓉苑です。ここで経験した話を皆さんが持ち帰り、それが地域の中に広がり、結果としてボランティアに参加することが自然になっていったのではないかと思います。

姫野さん 地区社協の「ひざり助け合いネットワーク」は、この地区の助け合い活動の目玉です。病院送迎や家事支援、子育て支援など、身近な困りごとに対応しており、子育て世代の方から高齢者

まで頼りにされています。今後は、ほんのちよつとしたボランティア「ちょいボラ」のメンバーを増やし、連携していきたいと考えています。

地区の同窓会にもなる「納涼祭」

齋藤さん 毎年恒例の「納涼祭」はこの地区の絆を深めるイベントの一つです。地区を巣立っていった子どもたちが大人になって、納涼祭の時には帰省してくる、いわば同窓会のようなイベントです。準備など大変な面もありますが、参加者の皆さんが「やって良かった」と最終的に達成感を得られるのには、このような側面もあるのかもしれないですね。

利根川さん 盆踊りとたくさんのお店や、地区社協と民生委員による体験ブース、バザーも出店され、大いに賑わいます。

気軽に集えるみんなの居場所作り

齋藤さん 地区全体で取り組んでいる「わが街ひざり・いきいき幸せプラン」の一環として、さまざまなサロン活動をしています。

利根川さん 今は10か所ぐらい。健康体操をした後にみんなでお茶を飲むといった高齢者向けのサロンや子育てサロンなど、多くの方に参加していただけるようプログラム内容を工夫しています。

齋藤さん 今後は軽く一杯飲めるような居場所も作れないかと考えているところ

です。

利根川さん ざっくばらんに集まれる「大人の居場所」ですね。

姫野さん 働いている人のニーズにも合わせて、土日や夕方に気軽に立ち寄って、コーヒーだけじゃなく、お酒も飲みながらお話ができたらいいな、と。

米村さん 一人暮らしで寂しい思いをしている高齢者も多いと思います。気軽に集まれる場所に来て、おしゃべりをして、顔見知りが増えれば、何かあった時に助け合えるかもしれない。

齋藤さん 町の活性化のためにも実現させたいですね。

齋藤会長コラム 地区への想い

この町に住めることに喜びを感じています。一番大事なのは、やはり絆です。

これまではあまり他人のことを気にかけずに暮らしてきたかもしれないですが、高齢化や昨今の災害など様々なことを目の当たりにするなかで、地域の中で助け合っていかなければならないことにみんな気付いてきました。向こう三軒両隣で仲良く、みんなで知恵を出し合えば、より素晴らしい地区になるのではないかと思います。

自分たちのことは自分たちで。

日野南連合自治会

自分たちのことは自分たちで

上田さん この昭和45年頃から大規模な開発をしてきた地域です。港南区の一番端っことでしたが、戸建てが並ぶ町になりました。当時、みんな一生懸命働いて手に入れたマイホームということもあって、美しい町並みを守っていききたい、自分たちのことは自分たちで、という意識が芽生えたんじゃないかなと思います。

淡路さん 私は若い頃、引越してきましたが、栄区との区界にある鍛冶ヶ谷南公園や日野南公園から見える富士山などの眺望は自慢の一つです。また、この地区は区内でも先駆的な取組をしていました。野村港南台・港南つつじヶ丘自治会館では、区内で初めて太陽光発電を取り入れました。さらには、景観を保つため、各家庭の屋根にアンテナが付いてないことも自慢ですね。

上田さん また、この地域では、有志による防犯パトロールが20年以上毎日行われています。野村港南台・港南つつじヶ丘自治会館には「日野南安全安心ステーション」が開設され、防犯パトロールの拠



左から：日野南連合自治会会長 上田昭則さん、港南つつじヶ丘和楽会(シルバークラブ)会長 淡路伸勝さん

点として、また、24時間使用可能なAED保管場所として利用されています。

防災と福祉を兼ね備えた「助け合いグループ」

上田さん 区民意識調査では、日野南は防災に関する意識の高さが常に上位です。防災への取組は、区役所や消防に頼るだけでなく自分たちで何とかする、という意識からはじまっています。自分のことと、せめて自分の両隣と向こう数軒はお互いに助け合おう、ということ「助け合いグループ」を作りました。

淡路さん お互いに情報交換をして支え合って行こうよ、というグループです。

世代間交流で若い人も仲間

上田さん この地区は高齢化率が高く、どうしても高齢者に目が向いてしまいがちですが、もっと若い人を仲間にしたと考えています。地区社協主催の「夏



▲日野南カレー屋

休みお楽しみ工房」では、お年寄り子どもにも囲碁を教えてあげるようなこともあり、今後はこのような世代間交流を進めていきたいと考えています。「日野南カレー屋」というイベントを自治会館で年4回やっていますが、こちらも毎回100人以上集まります。

淡路さん この間は、子どもたちと高齢者が一緒に、おはじきやコマを楽しめるコーナーを作ってみました。大盛況でした。

上田さん 「日野南カレー屋」は、取組に賛同する皆さんが「世代間交流を進める会」を結成し主催していますが、いろんな

人がボランティアとして楽しみながら、調理や運営を分担してやっています。

地域の一大イベント「富士見夏祭り」、力作が勢ぞろいする「日野南アート展」

上田さん この地区は歴史こそ浅いですが、「富士見夏祭り」という大きなお祭りを、毎年港南区と栄区の5自治会が区を越えて共催しており、4,000人ぐらいの方が集まります。

また、「日野南アート展」は、この地区には多趣味な人が多いので、皆さんの発表の場として、また、こんな事をやっている人がいるんだなとお互いを知るきっかけとなれば、との思いから、連合主催で始めました。出展者は小中学生も含めて100人以上。絵画・水墨画・写真・絵手紙など様々な作品が展示されます。

上田会長コラム 地区への想い

高齢化率が高い傾向は続いていくと思いますが、そんな中でもこれからは世代間交流の場をもっと作って、若い人たちを仲間にしていきたいですね。そして、犯罪のない穏やかな地域が続くように、皆さんと力を合わせて取り組んでいきたいなと思います。